



希望の鐘 *The Bell of Hope*



The Y's Men's Club of Kawagoe

〒350-0046 川越市菅原町 7-16

tel : 049-226-2491 fax : 049-226-2304

c/o Kawagoe YMCA, 7-16 Sugawara-cho, Kawagoe, Saitama 350-0046 Japan

川越ワイズメンズクラブ会報

No. 25-08

3月号

発行 2023年3月17日

Chartered 1998

会長 山本 剛史郎
副会長 松川 厚子
会計 吉田 公代
書記 吉野 勝三郎

クラブ会長主題「温故知人」「明日に向かって新しい出会いを！」

国際会長 Ulrik Lauridsen 氏(デンマーク)

主題“Let Your Light Shine“

(輝かそう、あなたの光を)

アジア太平洋地域会長 Chen Ming Chen(台湾)

主題“Elegantly Change with New Era”

(新しい時代とともに、エレガントに変化を)

東日本区理事 佐藤重良 (甲府 21)

主題「未来に向けて今すぐ行動しよう」

関東東部部長 工藤大丈(ベイサイド)

主題「新規技術(テクノロジー)を縦横に 駆使し、効率を重んじる。

すべては、プレミアムな価値と体験を産むために」「成せば、成る」

“No challenge, No fruit”

3月の聖句

だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。

マタイによる福音書 7章 12節

Therefore, all things whatsoever ye would that men should do to you, do ye even so to them; for this is the law and the prophets.

Matthew 7:12

11、いわゆる東日本大震災が起こったこともあり、そのことが心のトラウマというか、不安を掻き立てる要素の一つになっている。その東日本大震災の津波で多くの児童・教職員の命が奪われた石巻市立大川小学校を以前に訪れたことがあるが、ここで多くの人が亡くなったのかと思うと本当に心が痛み、心がざわつく思いがした。心がざわつくのは桜のせいばかりではないが、この季節は何か心がざわつく時期である。

2023年3月 例会プログラム(予告)

IBC, Salem Y Service Club との Zoom Meeting

日時:2023年3月25日(土)午前 11:00

場所:埼玉 YMCA 川越センター

または zoom では以下の URL でミーティングに参加してください

<https://us06web.zoom.us/j/85042906393?pwd=NSStNjEFTY0RzZ2FSV3p5Q1NVYzE4Zz09>

ミーティングID:850 4290 6393

パスコード:255203

暗証番号は 1220 です。

通訳は利根川恵子さんにお願いますので、日本語での参加も可能です。

各自、短く自己紹介をしてもらいます。

2023年2月の統計(2月18日)

在籍9名 出席者7名(リモート含む)出席率78%

巻頭言

会長 山本剛史郎

「世の中にたえて桜のなかりせば 春の心はのどけからまし」という和歌は古今和歌集、伊勢物語に収録されている在原業平の歌とされている。現代語訳としては「この世の中に、全く桜というものがなかったなら、春を過ごす人の心はどんなにのどかであることでしょ。」という意味だが、昔からこの和歌にはいろいろと入り混じった思いがあり、この季節になると思い出す。日本において年度は4月から始まり翌年3月に終わるので、自然と桜の咲く季節3月、4月は過去との別れ、新しい生活の始まりと不安になることが集中して起こる季節である。それに加えて12年前の3・

なお、その後、12:30 から場所を移して、リーダーとの交流会

を行います。

リーダーと昼食を食べながらの交流会です。参加者は3月21日(火)までにご連絡ください。

場所は当日お知らせします。

2月例会報告

山本剛史郎

フィリピン・パンガシナン ワイズメンズクラブとの zoom 交流会

2023年2月18日(土)、zoomによるパンガシナンワイズメンズクラブとの交流会を行いました。参加者は以下の通りです。(敬称略)

(川越)生川美樹、利根川恵子、山崎純子、吉田公代、山本剛史郎

(パンガシナン) Jimmy Bacani、Dean John、Jun Cabanilla、Chelly Carlos、Edil Abalos

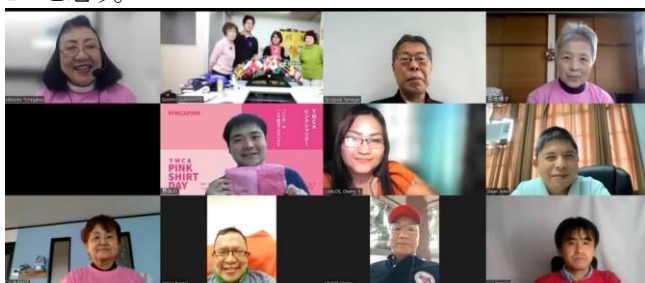
(所沢)小関京子、大澤和子、東裕二、宮地輝子

(東京町田スマイリング)為我井輝忠

(埼玉YMCA職員)長谷川洋輔

パンガシナンYMCAは埼玉YMCAと姉妹YMCA関係になっており、かつて埼玉YMCAが多くの若者をフィリピン・ワークキャンプに送りだしました。私も1994年のフィリピン・ワークキャンプに参加しましたし、所沢クラブの大澤さんの息子二人もキャンパーとして関り、私や大澤さんもそれがきっかけでYMCA、ワイズメンズクラブへとつながっていきました。30年ほど前にはパンガシナンにもワイズメンズクラブがあったのですが、その後消滅してしまい、2022年に再び15名の人々が集まりパンガシナンワイズメンズクラブが誕生し、国際協会から正式に認められました。そこで埼玉3ワイズと交流会を持ちたいと考え、今回はzoom例会としました。また、為我井さんはパンガシナンにあるルソン大学で教えていたこともあり、特別ゲストとして参加していただきました。

今回は初めての顔合わせということもあり、簡単にお互いの人物とクラブについて紹介をしました。パンガシナンYMCAは日本の埼玉YMCAからだけでなく、香港や韓国といった他の国からのキャンパーを多く受け入れており、その意味では大変に活発な活動を行っています。いずれは国際兄弟クラブ(IBC)として関係を持っていきたいと考えているが、まずはお互いに何ができるのか、どんな交流、どんな支援ができるのかを考えていきたいと思う。



国際の舞台から

“Keiko’s Monthly Briefing of YMI/ASP”

次期アジア太平洋地域会長／国際議員 利根川恵子

昨日(3月9日)から、ワイズメンズクラブ国際協会設立100周年祝賀行事に参加するために、台北に来ています。まず羽田空港で、トラベル・コーディネーターの加藤重雄さんが企画したツアーの参加者のみなさまとご挨拶ができ、いよいよ出発という気持ちが高まりました。ちなみに、埼玉からは、我々夫婦と、衣笠輝夫さん、澁谷弘祐さんご参加です。

約3時間のフライトで台北・松山空港に到着すると、台湾のワイズの方々が多数のプラカードを持って日本からの参加者をお迎えしてくださったのですが、その中に、「利根川ご夫婦」というプラカードがあり、感激いたしました。台北セントラルクラブが私たちのお迎え、夕食手配の担当となったようで、王会長、李元会長がお出迎え、夕食には元地域会長のオースティン・リンさん、アジア太平洋地域トラベル・コーディネーターのマーク・リンさんご参加くださいました。さらに、同じY台北ホテルに宿泊の、元アジア太平洋地域会長のリタ・ヘテリアアッチさん、ラテンアメリカ地域の国際議員・ラウラ・ゴンカルベスさん、次期国際議員・地域会長、メリー・グズマンさん、現ブラジル部部長のマルガリーダ・マリア・ルイボさんも加わり、賑やかな食事となりました。この食事の席だけでも、台湾、スリランカ、ボリビア、ブラジル、日本と5カ国のメンバーが一同に会することになり、ワイズメンズクラブ活動の醍醐味をいきなり味わいました。

さて今日からは本番ですが、私は通訳として、田中博之さん(東京多摩みなみ)、前田香代子さん(熊本ジェーンズ)、田尻忠邦さん(大阪)の東西日本区通訳・翻訳チームのメンバーと分担して、プログラムの3分の1程度を同時通訳いたします。日本からの参加者が内容を理解し、来て良かったと思っていただけるようにできることを願っています。

また、IBC国際事業主任のV.J.クマールさん(ハイデラバード)が参加できないので、2つのIBC締結式を、アジア太平洋地域IBC事業主任のフランク・ツァイさんと2人で仕切ることになりました。

ブリティッシュ来月号には記念すべき100周年記念祝賀行事の詳細をご報告させていただきますのでどうぞお楽しみに。



台北空港にて



夕食会

YMCA報告

河合今日子

<2月22日(水)はピンクシャツデー>
社会全体がいじめに対し「自分ごと」として向き合うこと、被害者と加害者以外の立場にいる人が「傍観者にならないこと」が、傷つけ合うことのない平和な社会につながると信じて、YMCAの様々な活動を通して、話し合い、共に考えています。—Standing together against bullying.

川越センターでは、プログラム参加者・来館者に「ピンクシャツデー」の趣旨を説明し、それぞれ思い思いのピンク色を身につけ、ピンクシャツデーウィークを過ごしました(対象・個別に合わせて、「ピンクシャツデー」について考える場面を設けています)。今後も互いを認め合い、高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会を創っていきます。



<マスク着用に関するご案内>
2023年3月13日からの対応について、マスクにつき

ましては政府発表に準じまして、その他の防止策につきましてはは継続して運営をいたします。ご不便をお掛けする場面もあることと存じますが、ご理解いただきまして引き続き皆様のご協力をいただきながら取り組んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

○ 咳など呼吸器の症状がある方はマスク着用へのご協力をお願いいたします。

合わせまして、事業所やプログラム内容によってスタッフが必要と判断した場合には、マスク着用をお願いをいたしますので、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

○ 指定管理や受託事業などの行政協働事業につきましては、行政通知に準じて対応いたしますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症対策

これまで屋外では原則不要、屋内では原則着用としていましたが
令和5年3月13日から
マスク着用は個人の判断が基本となります

ただし、以下のような場合には注意しましょう

周囲の方に、感染を広げないために

マスクを着用しましょう

受診時や医療機関・高齢者施設などを訪問する時

通勤ラッシュ時など混雑した電車・バスに乗車する時

ご自身を感染から守るために

マスク着用が効果的です

高齢者

慢性肝臓病がん 心血管疾患 など

妊婦

重症化リスクの高い方が感染拡大時に混雑した場所に行く時

本人の意思に反してマスクの着脱を強いることがないよう、個人の主体的な判断が尊重されるよう、ご配慮をお願いします

※事業者の判断でマスク着用を求められる場合や従業員がマスクを着用している場合があります



作成: 令和5年2月10日

<トルコ・シリア募金>

YMCAの世界的なネットワークの強みの1つに、現地にYMCAがあることによる信頼性と即時性がありますが、今回被災地となったトルコとシリアにはYMCAが無いいため、世界YMCA同盟やアジア太平洋/ヨーロッパYMCA同盟などエリアのYMCAとの協働を模索しつつ、最終的にキリスト教を基盤として活動する団体を通じた支援で進めることに

なりました。<PDF>

ポジティブネット YMCA 国際協力募金



トルコ・シリア大地震 緊急支援募金



2023年2月6日に発生した地震で被災した人は、2,300万人以上（WHO・うち140万人が若者）と伝えられています。厳しい寒さの中、体調や衛生面、メンタルも課題になってきます。長期化が予想される不安な避難生活の中で、一人ひとりが大切にされ、健康が守られるように現地の活動を支えます。ご協力をお願いします。

募金期間
~3/31まで

YMCA とつながりのある

ACT Alliance (アクトアライアンス) を通じて支援します。
2/8 現在、現地7か所で活動中



避難者のニーズ聞き取り

生活支援物資の運搬配布

暖かい食事の提供

食料、防寒具、医薬衛生用品、寝具、充電器など

建物の調査員の派遣



◆ACT Alliance (アクトアライアンス)
YMCAの被災地支援は現地や近隣のYMCAを通して行いますが、トルコとシリアにはYMCAがないため、ACT Allianceを通して支援します。ACT Allianceは、WCC (世界キリスト教協議会) など145の教派を超えた間連教会・団体によって構成され、本部はジュネーブにあります。世界120か国以上で人道支援・開発支援・政策提言を行っています。日本からは日本YMCA同盟が加盟しているNCC (日本キリスト教協議会) が加盟しています (ACTはACTION BY CHURCHES TOGETHERの略)。



物資の仕分け

募金はこちらへ

埼玉YMCAの各センター設置の募金箱または下記をお願いします。

【ゆうちょ】
郵便振替口座 00120-5-118690
【銀行】
埼玉りそな銀行 新所沢支店
普通 1055522

*上記共に名義は「公益財団法人埼玉YMCA」になります。
*通信欄に「トルコ・シリア支援」とお書きください。

YMCAは、
世界最大規模の青少年団体です。
世界120の国と地域で展開し、6500万人が参加。地域社会に深く根ざし、人々のウェルビーイング、学びたいのある仕事と環境の創造、持続可能な地球、公正な世界の実現を目指し活動しています。

埼玉YMCA

公益財団法人埼玉YMCA ポジティブネット募金事務局 〒359-1141 埼玉県所沢市小手振町1-39-2 Tel 04-2939-5051



<埼玉 YMCA 創立50周年式典のご案内>

日時:2023年3月21日(火・祝)

午後2時~4時30分(開場13時30分)

会場:日本バプテスト浦和キリスト教会
(最寄駅JR 北浦和)

次第:

第一部 礼拝

司会 衣笠輝夫氏(埼玉YMCA理事)

奨励 上林順一郎牧師

第二部 交流会・感謝会

司会 池田美知子氏(埼玉YMCA評議員)

挨拶 吉野勝三郎氏(埼玉YMCA評議員会会長)

(編集後記)

山本会長の巻頭言で言われるように、日本では毎年3月・4月は、人生にとって大きな区切りの時です。私も高校を卒業して大学に進学した18歳の春を思い出しました。浪人はできない家庭環境でしたので、大学入試に失敗すれば就職するという、正に二者択一でした。国家公務員として就職が決まっていて、勤務予定先からは、早く荷物を送って来るようにとの複数回の催促を受けながらも、それを無視し続け、大学入試の発表を待ちました。幸い、大学入学が許されたので、就職先に

は、電報でお詫びの連絡をしました。

自分の人生を振り返って見た時に、60年前の3月・4月は、非常に重要なターニングポイントだったと思わされます。皆さんにとって忘れられない3月・4月はどんなことがあったでしょうか？

都合で、2月の例会に参加できませんでしたので、今月の例会参加を楽しみにしています。

(K. Y.)